

企業ニュース レーザーテック

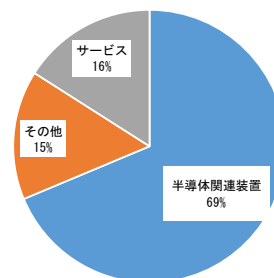
(東証1部: 6920) <https://www.lasertec.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

半導体フォトマスク検査装置メーカー

◇19.6期売上高構成比

1960年に東京ITV研究所として創業、X線テレビの開発を行う。1962年、日本自動制御に組織変更、1986年、現社名に変更した。最先端の光応用技術を用いた独自の検査・測定装置を開発、販売している。半導体マスク欠陥検査装置、半導体マスクブランクス（パターニング前のマスク原版）欠陥検査装置が業績のけん引役。19年6月末の受注残高は556億円と高水準となっている。17年9月に公表された160億円の大型受注はAPMI（Actinic Patterned Mask Inspection）であることが今回公表された。次世代のEUV露光工程での活用が見込まれる製品として期待されている。足元、半導体は価格下落に伴いメモリの生産調整が行われているが、ロジックなどの活況は継続し、微細化の進展に伴いEUV露光活用なども進捗している。当社にとっては良好な事業環境が継続しよう。



(出所) レーザーテック資料よりCAM作成

旺盛な最先端分野の研究開発意欲が業績をけん引

19.6期の連結業績は売上高が288億円、前期比35%増、営業利益が79億円、同40%増。半導体マスク欠陥検査装置などが好調に推移、受注高、売上高、営業利益はともに過去最高額を達成した。2月4日に公表された会社計画値も上振れた。フラットパネル用マスク検査装置などのその他事業、サービス部門も伸長、すべての製品区分で増収となった。積極的な研究開発投資などを行っているため、費用面の増加はあったが、増収効果で補った。

20.6期の会社計画は売上高が400億円、前期比39%増、営業利益が130億円、同64%増。引き続き積極的な研究開発投資を行うが増収効果による粗利益増加で大幅増益を見込む。FPD関連装置などが端境期でその他事業は減収（受注は拡大の計画）となるが、主力の半導体関連装置がけん引し、大幅増収増益を見込む。中期的にもAPMIの追加受注の期待も高く、業績拡大が継続しよう。

[株価動向・投資判断]

最先端分野ではEUV露光の開発意欲が依然強く、当社の業績をけん引している。不透明感強まる業界内でも、成長期待が高い銘柄となろう。APMIの販売拡大も期待できよう。

<6920 レーザーテック 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益		1株配当	
	百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		円		円	
18.6	21,252	(23)	5,685	(16)	5,706	(15)	4,366	(24)	96.8		34.00	
19.6	28,769	(35)	7,941	(40)	7,834	(37)	5,933	(36)	131.6		47.00	
20.6 予	40,000	(39)	13,000	(64)	13,000	(66)	10,000	(69)	221.8		78.00	



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2019/8/19)	5,780 円
年初来高値 (高値日)	6,120 円 (19/8/16)
同 安値 (安値日)	2,523 円 (19/1/4)
予想PER (20.6予)	26.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	689.4 円
PBR	8.38 倍
予想配当利回り	1.35 %
(1株当たり配当金78.00円)	
ROE (19.6)	20.4 %
発行済み株式数	4,714 万株